「天気」論文・短報掲載料の徴収のお知らせ

「天気」編集委員会では，理事会の承認を得て，1999年1月1日以降に投稿される論文・短報に対しては，著者が研究を本務とする機関に所属し，その機関の職務として行った研究の成果を含む場合には，所属機関に掲載料を負担していただくことにいたしました．なお，著者が研究を本務とする機関に所属しないなど上記の要件に該当しない場合は従来通り無料とします．また著者が研究を本務とする機関に所属していても，何らかの事情で所属機関による負担が困難な場合には，その旨を書いた書面を編集委員会に提出し，編集委員会がこれを了承した場合には無料とします．

掲載料は，論文（短報）の場合，最初の10ページ（4ページ）まで1ページ当たり5,000円，これを越えるページ分については1ページ当たり10,000円とします．フロッピーディスクによる投稿は，原稿の体裁が「天気」の投稿規定に合致した原稿であることを条件に1ページ当たり1,000円を割り引くものとします．

以下に今回掲載料徴収に踏み切るに至った経緯をご説明いたします．

1．これまでの経緯

1996年度会計監査及び第29・30期合同理事会において監事から「天気」論文に対する掲載料の徴収について検討することが理事会に強く要望されました．その趣旨は，1）「天気」は印刷事業単独では黒字だが，管理費分担を含めると赤字であるので収支を改善する努力が必要である，2）「天気」論文の投稿者のかなりの部分が研究を本務とする研究者であり，同じ学会が発行する雑誌で「気象集誌」で掲載料を徴収し，「天気」では徴収しないのはバランスを欠く．また，論文は他の会員への最新の情報提供という観点も無いわけではないが，気象学会会員全体の利益という観点からすれば，他の記事に比べて著者の利益が格段に大きいと思われる．したがって，掲載料を徴収して，これで得た利益で幅広い会員に役立つ記事などを掲載する費用に充てるなどすべきである，というものでした．

2．編集委員会での検討結果

「天気」編集委員会では，この件に関する理事会からの検討依頼を受けて，掲載料の徴収，記事の規定ページ超過に対する課金，別刷料金の値上げなどを幅広い観点から議論してきました．1）に関しては，学会の機関誌である「天気」が管理費負担も含めて常に黒字であるべきかという考え方もあり，編集委員会として収支改善の努力の必要は認めるが，このことを理由にして論文の掲載料の徴収に踏み切ることには慎重な意見が多くありました（ちなみに，1994年度から1997年度までの収支を見ると，1994年度の450万円の赤字から，230万，22万と赤字が減っており，1997年度は29万円の黒字となっています）．一方，2）に関しては編集委員会でも賛同する意見が多く，1998年7月の委員会において，今後幅広い会員に有用な新企画を立てることを条件に，1999年1月以降の投稿から，「論文」「短報」の掲載料を徴収する提案を行い，理事会で議論していただくことにしました．

なお，別刷については現在でも無料分30部を除いては若干の利益をあげており，値上げの必要性は認められません．また，論文・短報以外の記事については，会員の一部には超過料金を取るべきとする意見もありますが，これらの記事が会員への情報提供の性格が強いことから，引き続き投稿を促進するためにもページ超過料金は取らないことにしたいと思います．但し，特別な事情が無い限り，編集委員会では基本的には規定ページ内に収まるように著者の努力を強くうながす努力をして参ります．

3．常任理事会・理事会での審議結果

「天気」編集委員会での上記検討結果と掲載料徴収の提案は1998年度第5回常任理事会及び1998年度第2回理事会で審議され，承認されました．

4．多くの会員の方々に役立つ機関誌を目指して

論文・短報の掲載料の徴収は著者の方々に対するサービスの低下ではありますが，「天気」では幅広い読者に役立つ新企画の検討を進めております．まず，1999年1月からは，地方会員や予報業務・民間気象業務関連の会員にも有用な，大気現象のわかりやすい解説を掲載する「天気の教室」欄を創設する予定です．開始

に当たってはまず,11月から始まる気象技術講習会(メソ気象）の講師の方々による講義内容を連載することを考えています．その他にも，新しい企画を検討中です．会員の皆様も，新しい企画に対するご要望を是非編集委員会までお寄せ下さい．

「天気の教室」欄新設のお知らせ

近年，民間気象業務の自由化や気象予報士の誕生に伴い，幅広い分野から従来にも増して最新の気象学や気象技術の知識を求める声が高まっています．日本気象学会では，本年11月から，気象業務支援センターとの共催で「気象技術講習会」を開催する（「天気」1998年８号参照）など，社会に対する「気象情報や気象知識の理解と利用の普及」に貢献する努力を行ってきていますが，この度，「天気」編集委員会でも，幅広い分野の会員の皆様に有用な気象学や気象技術の知識をわかりやすく解説する「天気の教室」欄を新設することに致しました．「天気の教室」欄に掲載する記事は，原則として編集委員会からの依頼原稿によりますが，研究・気象業務の現場で日々「天気」と向かい合っていらっしゃる方々からのご投稿も歓迎します．原稿をお書きいただける方は，どうぞ編集委員会までご一報下さい．また，こういうテーマに関する解説がほしいというご希望も編集委員会まで是非お寄せ下さい．

本欄を始めるに当たり，気象業務支援センターのご理解を得て，上述の「気象技術講習会」の専門課程第１回メソ気象コースの講師の方々のうち承諾が得られた方にお願いして，その講義内容をご執筆いただくことにしました．今後も一般的な解説に加えて，第２回以降の「気象技術講習会」の講義内容も掲載できればと考えております．本欄が健やかに成長しますよう，会員の皆様のご協力をお願いいたします．

電子メールアドレスの掲載について

過日ある会員より，「天気」の論文等の著者の電子メールアドレスを掲載してもらえないかとのお手紙を編集委員会にいただきました．編集委員会で検討した結果，論文に限らず，「天気」のあらゆる記事でメールアドレスの掲載を希望する方は，掲載することにいたしました．但し，掲載は責任著者１名に限ります．これに伴い，1999年１月号に添付する「天気」送り状にはメールアドレスと掲載希望の有無の記入欄を設けることにいたします．これ以前に投稿される方で，メールアドレスの掲載を希望される方は，投稿時に文書（メールアドレスを記入したもの）でお申し出下さい．

「最近の研究から」欄の投稿規定の変更について

「最近の研究から」の投稿規定は現在「他の学術雑誌に会員が発表した最新の研究成果を簡単に紹介する」（「天気」45巻１号）となっていますが，より広い範疇に属する最新の研究成果を紹介していただくため,「日本気象学会以外の学術雑誌や学術会議に会員が発表した最新の研究成果や内外の気象学の研究に関する最新の話題を簡単に紹介する」と改めることにいたします．但し，投稿原稿の最終的な採否は編集委員会の判断によるものとします．